事後評価報告書（実行団体用）

１．基本情報

１-１）実行団体名：特定非営利活動法人エコ・コミュニケーションセンター(ECOM)

１-２）実行団体事業名：(埼玉県西部)「地域資源をしごとにする！」担い手育成３か年計画

１-３）資金分配団体名：特定非営利活動法人まちぽっと

１-４）資金分配団体事業名：市民社会強化活動支援事業（Pecs）

１-５）事業の種類：草の根活動支援事業

１-６）実施期間：2020年５月から2023年３月

１-７）事業対象地域：　埼玉県西部地域

2.事業概要

２-１事業計画と結果

２-１-１）優先的に解決すべき社会の諸課題

① 領域：地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動

② 分野：⑥地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動、⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

③ 直接的対象グループ：　埼玉県西部および隣接都市の学生、高校生、ニート・引きこもり、障害者などの若者たち

④ 間接的対象グループ：

２-１-２）事業の背景・課題

〇社会的課題

持続可能な地域づくりを進めるためには、そのためのプロジェクトや事業の担い手が必要である。既存の団体は押しなべて高齢化しており、そこにパワーを求めることはできない。首都圏の都市と近郊の若者に、ビジョンと経験とスキルを養う機会をつくることは急務になっている。青空のもとで汗を流すのが好きな若者にあった仕事をつくっていくことも重要課題である。一度でも自分のしごとを創り出すことに夢中になった経験を持つ若者は、豊かな人生を自ら切り開いていくことができるだろう。

〇課題に対する行政等による既存の取組み状況

①担い手育成：「比企起業塾」川越・比企地域振興センター東松山事務所主催、(合)ときがわカンパニー実施。（これまで２期開かれ十数人の起業家が育っている。）

「比企げんきアップ実行委員会」：「着地型観光研修プログラム」３回実施。

②少子高齢化：ときがわ町では「空き家バンク」、小川町では「移住支援センター」など移住促進や空き家、空き店舗あっせんの活動は盛んになっている。

《中長期アウトカム》

埼玉県西部地域において、同地域および埼玉県都市部や東京などの若者たちが、同地域の地域資源を活用して起業し、同地域のサブ地域（入間郡、比企郡、各市町村）において地域循環経済が始動し始める。

２-２本助成事業終了後の事業活動（出口戦略）

① 22年度の事業トライアル(5プロジェクト)のサポートと連携のためのHPの立ち上げ→活用(目的：仕事をつないで地域循環経済にしていくためのネットワーキングの拡大)
② 比企起業大学等の埼玉県西部地域内の起業者のヒアリングとネットワーキング
③ 埼玉県西部地域各市町村の商工会、役場産業振興課等のヒアリングと連携の模索・提案・実行
④ 23年度より(仮称)「地域循環経済フォーラム」を毎年開催し、地域循環経済づくりのネットワークを拡大していく。

３．事後評価計画・実施概要

３-１事後評価計画

《評価項目・評価小項目》

〇アウトカムの達成度

1. 受講者が、プログラムの企画書や実施計画、予算書が書けるようになる→受講者18名中９名が達成
2. 受講者が、プログラムのマーケティング、広報、集客計画が立てられるようになる→7名が達成
3. 受講者が、企画した事業のマネージメントができるようになる→7名が達成
4. 本事業に関わる地域住民の人数が３年間で300名になり、地域社会への影響力を持つ→関わっている住民約130名（目標300名の43%）

受講者が獲得すべきプログラム/事業の企画・運営力についてはほぼ目標を達成できた。それに伴う関わってくれた住民数やまわりの住民の意識変革については目標半ばで未だ途上にある。

未達成の理由については22年８月の「花咲かフェスティバル」がコロナ禍の影響によりオンライン実施になり、商工会・商店街への働きかけができなかったことが大きい。

〇波及効果

今回の事業目的の一つが、(直接起業者を育成することのほかに)高校生、学生を対象に、「地域資源をしごとにする」ことを経験しその意識を持ってもらい、都会に就職する以外の選択肢があることを身をもって知ってもらうことにあった。小川高校や埼玉城北高校、筑波大付属坂戸高校などの高校生への継続的な働きかけができたことは、その目的が達成され、今後起業を働きかける一定の層ができたことを意味する。

また、食農班の里山活動の中から里山整備によって生じた薪をネットで販売するなどの関連・派生した起業が生まれていることはよい波及効果である。

山林活用班のベンチ作成では、嵐山町商工会にベンチ販売のプレゼンに行き、地元の材が商品になることを認識いただいた。また、ベンチ作成プロセスで出た端材を壁材として活用するという建築士も現れており更なる波及効果が期待される。

○事業の効率性：

人を育てたり、地域住民の意識を変えていったりすることは極めて時間のかかる仕事である。里山や田畑に関わっている人は多いが、そうした人びとに人材育成や住民意識改革の課題を提起できたことは大きな成果である。効率性よりも丁寧に行うことが求められる。

一方、多様な問題意識、関心を持ち、また起業に関するノウハウの熟知度合いもバラバラな 10 数名の受講生に対し、その関心やレベルに応じた働きかけをしていくには、複数の経験とノウハウを持つリーダーを立てて数名のグループで活動を進めるやり方が有効であった。また３年目の起業プロジェクトに関しては、OJT という方法だけでなく、すでに自立して地域活動を進めている方々と連携して活動を進める方法も活用した。

３-２事後評価実施概要

３-２-１）評価ポイントの設定・実施（どのような変化をこの事業の重要なポイントとして設定し評価を実施したのか）

① 「受講者がプログラムの実施の段取りを立てられる」→プログラムの企画・運営を受講者に任せ、OJT リーダーが評価・アドバイスした。

② 「受講者がプログラムや事業を自分で考えられる　→　プログラムの企画・運営を受講者に任せ、受講者がふりかえりで自己評価し、OJT リーダーが評価・アドバイスした。

③ 「受講者がマーケティング､広報､集客の計画が立てられる→計画立案を受講者に任せ、OJT リーダーが評価・アドバイスした。

④ 「受講者がその地域でしかできない地域性のあるプログラムをつくれる」→プログラムの企画・立案を受講者に任せ、OJT リーダー、評価委員が評価した。

⑤ 「川、里山、農業・農産物、林業・林産物を活用した事業開発ができている」→受講者に資源に関する情報と活用のヒントを提供し、OJT リーダー、評価委員、関係地域住民が評価した。OJT リーダーは「活用した事業」の企画の事業としての妥当性を評価した。評価委員は企画の社会的影響、効果について評価した。関係地域住民は、活用するにあたっての留意点や地域への影響、住民の協力について評価した。

３-２-２）実施した調査（どのような調査を実施して測定したのか）

OJT リーダーへのヒアリングおよび受講者の「振り返りシート」の点検、評価委員のコメントによる。

３-２-３）調査結果の分析（調査結果をどのように深掘りし価値判断をしたのか）

地域の持続可能性、地域循環経済の成立要因の視点と事業の継続発展性の視点から上記内容を分析し判断した。

① 地域の持続可能性の視点(Food,Energy,Care の自給、循環性、多様性、有限性、関係

性)

② 地域循環経済の視点(産業連関、輸送/生産/廃棄のコスト及び環境負荷、ニーズ分析)

③ 事業の継続・発展性の視点(お客はだれか、お客のニーズは何か、どんなサービス・商品が提供できるのか、維持・再生産コストは、事業が生み出す収益は、収益や生まれる関係性は①、②にどのような効果をもたらすのか)

3-3実施体制（内部/外部、評価担当役割、氏名、団体・役職）

《計画時》

・ [事務局(内部)]森　良：上記①②③の視点から、全体統括の活動と評価

・ [評価委員(外部)]風間崇史(まなびしごとlab)：上記③の視点から

安藤智美（県職員）：上記①の視点から

《事後評価実施時》

計画通り実施

4．事業の実績

4-1インプットの計画と実績

4-1-1）資金

① 事業費（自己資金含む）7,335千円

内訳〔直接事業費〕6,135千円/〔管理的経費〕1,200千円

② 評価関連経費（計画時）285,000円/（実績額）　　円（ご記入時点での額でご記入ください）

③ コロナ対策緊急支援追加額　0円

④ 助成額（計画時合計額）5,950,000円

⑤ 助成額（実績合計額）　　円（ご記入時点での額でご記入ください）

⑥ 自己資金の種類と金額（計画時額）

・ 種類：プログラム参加費＝2020年度：345,000円/2021年度310,000円/2022年度　230,000円

・ 種類：受講者参加費＝2020年度：160,000円/2021年度160,000円/2022年度120,000円

・ 自己資金の種類と金額（実績額）

・ 種類：プログラム参加費＝2020年度：145,000円/2021年度110,000円/2022年度230,000円

・ 種類：受講者参加費＝2020年度：200,000円/2021年度100,000円/2022年度60,000　円

①自己資金の調達で工夫した点など（自由記述）

コロナ禍の影響により法人の事業収入が少なくなっていたので「事業復活支援金」の一部を使った。

４－１－２）人材

① 計画時：(内部)合計１人(担当者１人)、
（外部）合計９人（OJTリーダー３人、OJT補助者２人、評価委員３人）

② 実　績：　計画と同じ

４－１－３）資機材（事業で購入した高額の資機材の主要なものを記載してください）

① 計画時：なし

② 実　績：なし

４－２活動とアウトプットの計画と実績

４－２－１）主な活動の計画と実績

《アウトプット（計画時：概要、指標、初期値/初期状態、目標値／目標状態、目標達成時期、実績値)》

① 受講者が、プログラムの実施の段取りを立てられる(プログラム実施・運営力がある)

② 受講者が、プログラムや事業を自分で考えられる（プログラム立案、事業企画の力がある）

③ 受講者が、マーケティング、広報、集客の計画が立てられる（マーケティング、広報、集客力がある）

④ 受講者が、プログラムの意味や価値を的確に参加者に伝えられる（インタープリテーション力がある)

⑤ 地域性のあるプログラムがつくれる（地域ブランディング力がある）

《主な活動》

① (プログラム実施・運営力)[20年５月～21年３月]受講者募集→エントリーWS（趣旨・目的の伝達、OJTリーダー/メンターからのプレゼン、グループ分け、グループごとの活動計画立案）

② OJT活動[20年５月～21年３月]プログラムの見習いをし自ら企画できるようになる（①キャンプ、②山林活用、③食農教育）

③ OJT活動[21年４月～22年３月] プログラムの価値づけ研修を自分たちで企画し実行する(①キャンプ、②山林活用、③食農教育）

④ 中間発表検討会（各個人・グループの活動報告（自己評価含む）と相互およびメンター、評価委員、住民からの評価・提案・アドバイス）

⑤ 年次発表検討会（　　〃　　）

《主な活動における実績》

〔プログラム実施・運営力〕　予定通り実施

〔OJT活動〕

・ 食農：受講者４人、毎月のプログラムを交代で副リーダーとして企画・運営にかかわる形でOJT実施→２人が残り起業トライアル中。

・ 山林：受講者11人、嵐山町有林にて手入れのOJT→対象が小川高校から埼玉城北高

校に代わりベンチ作成のOJTを実施→ベンチ納入という一連のプロセスを学ぶ

- キャンプ：受講者1人、2回キャンプ実施→まだ学生なので引き続きキャンプでOJT実施。
- 企画；受講者6人、資源遠足や企画書づくり講座を実施→1人が残り「花咲かフェスティバル」で和紙で巨大灯篭をつくり文化祭で披露
- 里山産業化：受講者1人、3回見学会を実施→小川の里山を考える動画を作成し「花咲かフェスティバル」で上映、引き続き里山の活用を考える場を設けていく。

〔年次発表会〕

2回実施。各班の活動を発表し評価しあった。

〔価値づけ研修〕

21年12月にキャンプ・アウトドア班の「ツーリズムによる地域づくり講座」の一環として北海道のベテランインタープリターを招いて「インタープリテーション研修会」を実施。

〔事業開発〕

- 受講者7人が各自の自主企画を立案し広報し募集し準備運営し振り返りを行っている。
- 7人のプレゼンの場を持った(22/5/7小川高校)
- 現在5プロジェクトを実施中。
- 5プロジェクトの経過報告を実施(23/1/22小川高校)

4-3外部との連携・協力などの実績

- 食農：別紙①②（①下里から「小川町上横田大沼地域循環共生圏」へ地域連携図②連携団体の紹介）
- 山林：嵐山町役場(町有林の貸出し、ベンチの購入)、嵐山町商工会(ベンチの購入)
  (株)風憩セコロ（デザイン,設計,パンフ制作)、斎藤材木店（乾燥,製材)、埼玉城北高校（生徒が参加）
- キャンプ:「ツーリズムによる地域づくり講座」協力団体(ときがわ町観光協会、(株)おいでなせえおがわまち)、講師として黒松内ぶなの森自然学校
- 企画：「花咲かフェスティバル」協力者(小川高校グローバルメディア研究部、筑波大付属坂戸高校、音響/映像山中さん)
- 里山産業化：動画「里山に舞う」制作・協力(秩父堂写真店、ELGA,里山くらぶ)
- てtoて：早俣自治会、チーム東松山
- アイファミーユ：鳩山コミュニティマルシェ

4-4成果の分析（アウトカムの達成度と分析）

4-4-1）短期アウトカムの計画（計画時：概要、指標、初期値/初期状態、目標値／目標状態、目標達成時期)》

① ECOM,がっちゃんこが,助成金とプログラム収入を活用して、ツーリズム・体験活動のOJTを行い、受講する若者たちがプログラムの企画・運営の現場体験をしてそれらのノウハウを習得する/指標：受講者が、プログラムの企画書や実施計画、予算書が書けるようになる/初期値・初期状態：受講者18名/受講者が、プログラム実施の意欲はあ

るが、経験・ノウハウがない状態/目標値・目標状態：18名中12名(66%)/受講者が、地域資源を活用するプログラムの目的・目標・実施方法や参加者への働きかけ方を体験的に理解し習得する/目標達成時期：2021/3/1

② OJTと価値づけ研修実施により、受講する若者たちが地域資源活用プログラムを形成するコンセプトとなる地域ブランディング、インタープリテーション、マーケティング、広報、集客を実習して習得する/指標；受講者が、プログラムのマーケティング、広報、集客計画が立てられるようになる/初期値・初期状態：受講者12名/受講者が、プログラムの形は作れるようになっているが、地域振興や参加者の満足、収益を考えたもの(価値づけたプログラム)にはなっていない/目標値・目標状態：12名中9名(75%)/受講者が、プログラムの価値づけの仕方や表現・発信方法を習得し、形にできるようになる/目標達成時期：2022/3/1

③ 受講する若者たちが自分でプログラムを企画し広報・集客して、事業を実施・運営し評価する（修了後起業へ）/指標：受講者が、企画した事業のマネージメントができるようになる/初期値・初期状態：受講者9名/受講者が、地域の持続可能性で価値づけられたプログラムを作れ、マーケティングもできるようになっているが、まだ自分主体でやったことがない状態/目標値・目標状態：9名中7名(78%)/受講者が、すべて自分が中心になり責任をもって1年間のプログラムができるようになる/目標達成時期：2023年3月

④ 受講する若者たちがフィールドワークやマーケティングを通して地域資源(特に人材)を熟知し、その活用や良好なコミュニケーションをはかることを通して、「地域には何もない」「仕事がない」という住民意識が変わっていく/指標：本事業に関わる地域住民の人数が3年間で300名になり、地域社会への影響力を持つ/初期値・初期状態：既存の協力者50名/自分の地域資源に対する経験や知識が活かされてうれしいという意識の状態/目標値・目標状態：協力者300名/本事業主体に協力してやっているという意識から、自分たちが頑張って若者が地域で働ける環境づくりをするという意識に転換している/目標達成時期：2023年3月

４-４-２）短期アウトカムの達成度（実績：概要、実績値、要因、課題など）

① 受講者18人中9人が自分でプログラムの企画・運営の実施体験を通してそれらのノウハウを習得した/要因：OJTの的確さ/課題：マニュアル化して継承していくこと

② 受講者18人中7人が地域性があり地域に貢献できるプログラムをつくれている/要因：OJTリーダーの持つ地域との深いつながりが十分に活用された/課題:地域の仕事の連携・協力をもっとたくさんつくりだす

③ 受講者18人中7人が事業マネージメントができている/要因：OJTの回数の多さと的確さ/課題：地域全体に目を向けて協働事業化、協働マネージメントを考えること

④ 地域の関係者約130人(43%)が生まれた。食農班では、周囲にいた人が里山整備で出た薪のネット販売を始め農家から感謝されている。山林活用班では、商工会でベンチの販売のプレゼンをするなど地域の事業者によい刺激を与えている/要因：OJTリーダーの積極性、周囲の取り巻きの多彩さ（移住者中心）/課題:もっと働きかける機会と対照を増やす

4-4-3）アウトカム達成度についての評価（複数の短期アウトカムの達成度を総合的に見て（中長期アウトカム・今後の活動に向けた展望など含む））

「地域資源をしごとにする」上での所期の目標は達成できた。数値目標の達成度は以下の通り。1、プログラムの企画・運営は18名中**9名（目標9名）**、その先の広報・集客/事業マネージメントまでは**7名（目標7名）**ができるようになった。2，関わってくれた住民の数は目標300名の43%の**約130名**。1、の達成要因としてはOJTによる少人数への密着指導が挙げられる。2，の達成率43%については、コロナ禍による活動の制限という外部要因に加えて、受講者に地域とのかかわりを十分につくれなかったという内部要因がある。今後このような活動を行うときは初めから地域の方をアドバイザーにするなどの工夫が必要だということがわかった。

所期目標の達成の次はそれらの「しごと」をつないで地域循環経済をつくりだすことである。

これはすぐには達成できない目標であるが、一歩一歩着実につないでいくとともに、志を同じくする方々とのネットワークを拡していきたい。そのために以下のことを実行していく。

(1)「花咲か研HP」の立ち上げと活用

まちぽっとより一年ほど前から助成終了後の活動の継続のためにHPをつくってはどうかというアドバイスをいただいてきた。それはいいアイデアだと同意し現在作成中である。このHPは次のように活用していきたい。

<しごとをつなぐ>

3年目の5つの起業プロジェクトを紹介するだけでなく、他の起業者や既存の地域事業者とのしごと上の連携をつくりだしていく。積極的に地域をまわり、声をかけ、話し込んでいきたい。

<起業したい人をネットワークする>

- HPとSNSをリンクさせて活用し、いいね!ですぐつながれるようにする。
- リアルの場として「西埼玉ローカル起業フォーラム」を年1回開催し、起業プレゼンターとそのサポーターを募る。その広報のツールとしてHPを活用する。

(2)「ローカル起業フォーラム」の年次開催

「西埼玉ローカル起業フォーラム」の年次開催に向けて、2ヶ月に1回サブ地域(市町村)レベルでの「しごと起こし交流会」を積み上げていく。

4-4-4）波及効果（想定外、波及的・副次的効果など）

食農班の活動において、里山保全活動を担う「杜のなかまたち」というグループが生まれ、そのメンバーが里山整備で出た薪をネットで販売するという活動を始めた。こういう起業の波及が広がっていくことを期していきたい。

関わった高校の授業やクラブ活動によい影響を与えている。埼玉城北高校のフロンティア学科の探究の授業の深化に、また小川高校グローバルメディア研究部の高校生たちには和紙という地域資源への関心を高めその活用について刺激を与える効果を生んでいる。

4－4－5）効率性の向上

効率性よりも丁寧な働きかけが求められている。

5．成功要因・課題

一番の成功要因は、3人のOJTリーダーの意欲と積極性の高さである。OJTリーダーには、自分で活動をつくっていくという気概と試行錯誤を惜しまない（その結果として経験値が豊かになる）骨惜しみのなさ及びコミュニケーション、ネットワーキングへの積極性が求められるが、3人は十分にそれを満たしていた。OJTという形で自分でやってみる機会をたくさん与えられたことも受講者のノウハウ・スキルの習得に役に立った。さらにOJTというやり方だけに固執することなく、既存の地域活動、ボランティア活動の中からも起業意欲の高い方を発掘できたことが最終年度の起業プロジェクトの展開に大いに役に立った。

課題としては、今後つなぐ役割の比重が増大する中で、コーディネーターの役割ができる人を増やしていくことである。今回残っている7人のメンバーにはぜひその役割を担っていただけるようにしていきたい。

6．「つながり」の強化

OJTリーダーを中心に「地域資源をしごとに」という仲間意識はとても強くなった。今後お互いを支えあって活動していける。

また、地域の中にECOMのようなコーディネートや中間支援の役割をする団体が有効な活動をしているという認識が3年間の活動を通してかなり浸透した。これは今後の活動の展開に大いに役に立つ。

7．結論

7－1事業実施のプロセスおよび事業成果の達成度の自己評価

・（1）、（2）それぞれ1箇所を選択し、○をご記入ください。

	多くの改善の余地がある	想定した水準までに少し改善点がある	想定した水準にあるが一部改善点がある	想定した水準にある	想定した水準以上にある
（1）事業実施プロセス			○		
（2）事業成果の達成度				○	

7－2事業実施の妥当性

本プロジェクトがうまくいった背景には、教育界特に高校における探究授業の広がりがある。

小川高校は「小川学」という形で地域連携の探究授業を展開しており、埼玉城北高校ではフロンティア学科という形で探究中心の学科が展開されている。高校生に対する私たちの

働きかけがこれらの展開とうまくマッチしてすすむことができた。

またときがわ町が過疎指定されるなどして地域の側の人口減少への危機感も相当深まっている。マイナス面のみならず小川、ときがわにおける有機農家の広がりや有機農業研修生の増大など地域資源を活用したプラスの展開も大きくなってきて、移住者も増え始めている。

まさに時宜を得たプロジェクト提案であった。

８．提言

今回チャレンジした「地域資源をしごとにする」というのは、現在の日本中の衰退しつつある地域での喫緊の課題である。ということは全国各地に同様のニーズがあり、「地域資源をしごとにする」ことがどこでも追求されなければならないということである。

働きかける、人を探す、OJT を実施する、よい企画にはチャレンジする機会と立ち上げ資金を用意するという基本的な仕組みを各地でつくっていく必要がある。

そのために、一つは、まちぽっとが支援する 10 団体の活動地域でニーズがあるかヒアリングして、ニーズがありかつその団体が支援していく意思がある場合には、ECOM がノウハウを提供したりアドバイスをすることができる。

二つは、10 万円の立ち上げ資金を 5～10 本用意し活用することである。
休眠預金の活用については、上から網をかけるやり方だけでなく、下からの創意を地域密着で応援していく活用方法をぜひ検討していただきたい。

起業の応援資金としては、自治体が予算化する、基金をつくり市民、行政、企業が出資して運営するなどいろいろな方法が取れる。一番重要なのは伴走支援である。対象の成長を第一に考え、寄り添いつつずらす適切な伴走が求められる。

９．知見・教訓

起業というのは「起業すれば終わり」ではない。そこから先が苦しいたたかいになっていく。むしろ起業した後を応援するためのプロジェクトが必要だ。

特に今回の５プロジェクトのような市民活動ベースの事業においては、まず活動の発展が重要だ。そのうえで事業の継続性を求めていかねばならない。事業が持続可能になっていくには収益性の向上に頭を使い、販路・購買者の拡大に手足を動かさねばならない。そこで必要になってくるのが起業を支援してくれるサポーターの拡大だ。自分のできることで応援してくれる人を３人、５人と増やしていくことだ。その人たちが口コミで評判を流してくれるだけで事業環境はかなり良くなっていく。

今後はそこに力を注いでいきたい。

本事業と同様な事業を展開する際に押さえておきたいことがいくつかあるので追記する。
①起業の意思をしっかり持つ者と高校生や学生などの視野を広げるために行う研修は明確に区別し、目的に応じた研修プログラムをよく考える。
②起業や経営のノウハウの研修と OJT 研修、価値づけ研修を組み合わせてトータルな研修プログラムを準備する。

③起業のプレゼンは必ず公開で「自分のできることで応援したい」という地域の方々を多数集めて行う。企業プレゼンターの発言時間よりもそれを応援したいというサポーターの発言時間を長くとる。

④地域資源を活用する知恵はもともと地域の人たちに共有されている。はじめからそうした地域の人たちとの連携を組み込んで起業支援を進めたい。

また、3 年目に展開した 6 プロジェクトは、今後二つの大きなくくりで連携させて発展させていきたい。一つは「里山/森林の活用」である。これは、a,小川町上横田大沼地域循環共生圏と b,山林活用とベンチ制作が軸となり c,森で元気に！こころと体を癒す自然体験プログラムが里山,森林で副次的に展開できるプログラムとして活用され、d,里山活用社会に向けたドキュメンタリー映画の作成が a,b,c の活用例を示しながら、今後の里山開発のよい方向を議論し模索していく材料となるという行き方ができるだろう。

もう一つは、チーム東松山が主体となって 2019 年の台風 19 号被災地域でのコミュニティづくりをすすめていくくくりである。e,ステップハウス建設計画(東松山市毛塚地域)、f,納屋リノベーション計画(同早俣地域)を両輪として葛袋地域などにコミュニティづくりを広げていく行き方である。

10. 資料（別添）

- 別紙①下里から「小川町上横田大沼地域循環共生圏」へ　地域連携図
- 別紙②同上　連携団体の紹介
- 別紙③写真

地域に広がるＯＫＵＴＡこめまめプロジェクト
下里から『小川町上横田大沼地域循環共生圏 へ
地域連携図
農家グループ
一般市民・企業
ＯＫＵＴＡ
小川高校
グローカルメディア（記録）
自然農法センター
（有機稲作指導）
横山和成先生
(土壌微生物学)
後藤先生
(環境学)
小川堆肥組合
土の学校
市民家庭菜園
EdiVery
Edible School
小川里山食農スクール
エディベリ
田植え
広場
96里山
保全活動
地区
堆肥場
大沼（ため池）
フルボ酸を含んだ水
落ち葉
里山保全市民グループ
村木米穀店
おがわっこ保育園
の給食
ＯＫＵＴＡ
ＯＫＵＴＡ社員
小利大安の小川モデル

連携団体の紹介

里山保全活動

杜のなかまたち

堆肥組合

有機稲作農家

栗原・湯沢・永島

消費者

（株）ＯＫＵＴＡ

おがわっこ保育園

提携米購入の
地域の人たち

バックアップ体制

横山和成先生
(土壌微生物学)

後藤先生
(環境学)

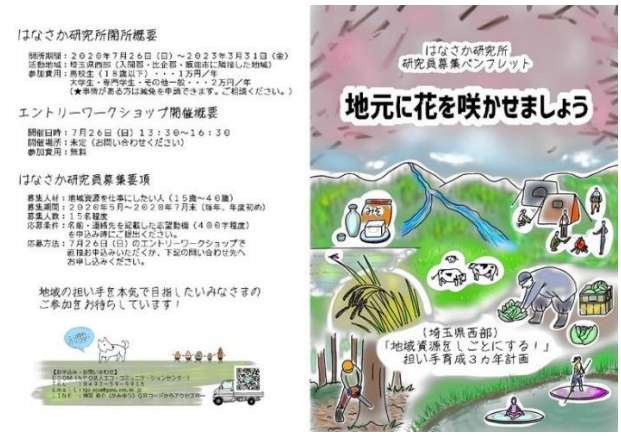
自然農法センター
（有機稲作指導）

小川高校
グローカルメディア
研究部
（記録・広報）

村木米穀店
（提携米の精米
発送）

小川里山食農スクール
エディベリ「土の学校」
里山の薪や落ち葉堆肥活用

ＮＰＯ生活工房
コーディネーター



はなさか研究所開所概要

開所期間：２０２０年７月２６日（日）～２０２３年３月３１日（金）
活動地域：埼玉県西部（入間郡・比企郡・飯能市に隣接した地域）
参加費用：高校生（１８歳以下）・・・１万円／年
大学生・専門学生・その他一般・・・２万円／年
（★事情がある方は減免を申請できます。ご相談ください。）

エントリーワークショップ開催概要

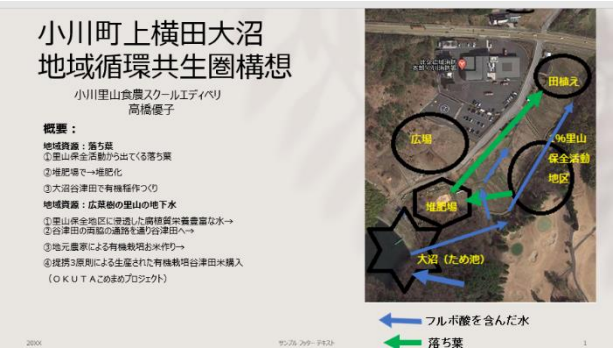
開催日時：７月２６日（日）１３：３０～１６：３０
開催場所：未定（お問い合わせください）
参加費用：無料

はなさか研究員募集要項

募集人材：地域資源を仕事にしたい人（１５歳～４０歳）
募集期間：２０２０年５月～２０２０年７月末（毎年、年度初め）
募集人数：１５名程度
応募条件：名前・連絡先を記載した応募動機（４００字程度）を申込み時にご提出ください。
応募方法：７月２６日（日）のエントリーワークショップで直接お申込みいただくか、下記の問い合わせ先へお申し込みください。

地域の担い手を本気で目指したいみなさまのご参加をお待ちしています！

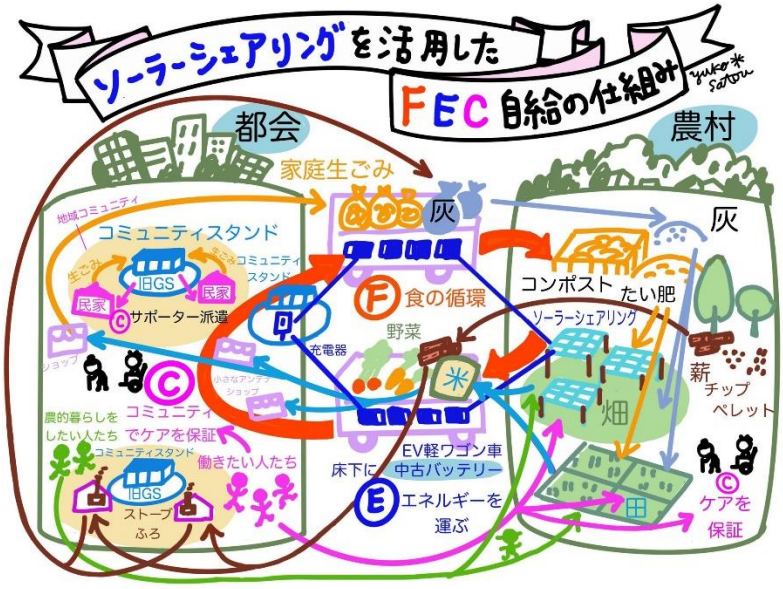
里山に舞う


小川町上横田大沼
地域循環共生圏構想
小川里山食農スクールエディベリ
高橋優子
概要：
地域資源：落ち葉
①里山保全活動から出てくる落ち葉
②堆肥場で→堆肥化
③大沼谷津田で有機稲作つくり
地域資源：広葉樹の里山の地下水
①里山保全地区に浸透した腐植質栄養豊富な水→
②谷津田の両脇の通路を通り谷津田へ→
③地元農家による有機栽培お米作り→
④找拐3原則による生産された有機栽培谷津田米購入
（ＯＫＵＴＡこめまめプロジェクト）
田植え
広場
96里山
保全活動
地区
堆肥場
大沼（ため池）
フルボ酸を含んだ水
落ち葉
20XX
サンプル フッター テキスト
1

東松山ステップハウス予定地
2019年台風19号で被災した住宅
ＮＰＯ法人チーム東松山の「社会事業」として、高校生のためのステップハウス（居住支援）事業を実施したいと思います。

森で元気に！
～こころとからだを癒す
自然体験プログラム～
アイファミーユ合同会社　佐藤 愛美

地域づくり研修会 at 入間・日高・比企
ツーリズムによる地域づくり(第３回)
地域ツーリズムのすすめ
～地域ガイディングのコツ～
●12/11 am インタープリテーションの実際(田黒・遠山・下里) 10～12:00
●12/11pm 講義「魂を伝える」(インタープリテーションの本質)13～15時
●1/8 地域ツーリズムのプランニングと自分の課題(東松山まちラボ) 9:30-12:30
インタープリテーション
ツーリズムによる地域づくり 募集要項
Jett 高木（高木晴光）


ソーラーシェアリングを活用した
FEC自給の仕組み
yuko*satsu
都会
農村
家庭生ごみ
灰
灰
地域コミュニティ
コミュニティスタンド
生ごみ
IHGS
民家
サポーター派遣
コミュニティスタンド
食の循環
コンポスト
たい肥
ソーラーシェアリング
野菜
充電器
小さなアンテナショップ
コミュニティ
でケアを保証
農的暮らしをしたい人たち
働きたい人たち
コミュニティスタンド
IHGS
ストーブ
ふろ
EV軽ワゴン車
床下に
中古バッテリー
エネルギーを運ぶ
薪
チップ
ペレット
畑
ケアを保証